



WORLD FEDERATION OF HEMOPHILIA
FÉDÉRATION MONDIALE DE L'HÉMOFILIE
FEDERACIÓN MUNDIAL DE HEMOFILIA

在宅療法の経済的恩恵

病院での治療とは違い、在宅療養は医療制度における経済的負担を低減し、血友病患者とその家族の生活の質を向上します。在宅療養では出血が始まると直ちに凝固因子製剤の投与が可能になるため、製剤必要量を最小限にし、長期的な関節障害を回避できます。

在宅療法の恩恵

- 研究によると、在宅療養が可能な国では、通院率が400%減り、厚生施設の負担が低減されることが示されました。
- 凝固因子製剤が迅速に使用できる場合、血友病患者の寿命を伸ばし、生活の質も高くなることが示されています。過去20年間の寿命の大幅な伸びと、在宅療養との間には相関関係があります。(Beitel, Barnard, Israel, Lillicrap, Poon, and Sek)
- 治療費の90%以上は因子補充製剤のコストであるため、在宅療養は高価な補充療法の最適な使用につながり、また、特定の出血症状治療に関するコストの実際的な削減につながります。メキシコのある調査によると、病院や診療所で生涯に渡り凝固因子製剤を投与する場合は、年間平均費用が1万8819ドル(米ドル)であるのに対し、在宅療養で投与した場合の年間平均費用は1万104ドル(米ドル)となっています。またいくつかの研究によると、病院や診療所への通院治療と比較して、在宅療養の一人当たり期待生存年1年の延長ごとの費用は738ドル(米ドル)増です。
- 迅速な治療により、出血からの一層早い回復、長期、短期的な障害の低減という結果が得られており、在宅療養で治療した患者では関節障害が最大30%も少なく、関節の自立機能保持につながります。

患者に在宅療養を提供しない場合の費用

- 患者や介護者の欠勤率が増加し、職場では生産性が減少。働けない場合には失業や家庭への経済的負担が増加し、雇用者のコストが増加します。
- 止血治療が遅れることで重度の合併症発症のリスクが増加し、入院・外科手術や他の医療的介入等が必要になる可能性があります。
- 学校の欠席日数増加による結果として教育・社会的格差ができ、学業未修了から雇用機会の減少や経済的影響につながる可能性があります。
- 家族の生活の質が低下します。家庭生活を乱す病院への緊急搬送がより頻繁になり、すでに医療的なことで重荷を感じている家族にさらなる困難となる摩擦やストレスの原因となります。

詳細情報につきましては、以下の資料をご覧ください。

1. Teitel JM, Barnard D, Israels S *et al.* Home management of hemophilia 2004.
2. Soucie JM, Symons J, Evatt B *et al.* Home-based factor infusion therapy and hospitalization for bleeding complications among males with haemophilia 2001.

For further information please contact the World Federation of Hemophilia
Tel: +1 (514) 875-7944 • Fax: +1 (514) 875-8916 • E-mail: wfh@wfh.org • www.wfh.org